



中国人学生の受講する中国語初級クラスの授業方法
について (中江彬教授退職記念号)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大形, 徹, 王, 秉玉 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004488

事例研究

中国人学生の受講する中国語初級クラスの授業方法 について

大形徹・王秉玉

はじめに

大形徹・王秉玉はともに大阪府立大学で中国語の授業を担当している。王は富田林市の小学校でも、日本で生まれ育った中国人の児童（小学生）にピンイン・簡体字を教えている。大形もまた本年（2006年度）、ピンイン・簡体字を習得していない中国人学生の参加している中国語初級の授業を担当する事となった。そのため、お互いの授業方法を明かにする事によって、今後、このような事例にどのように対処すべきかを探ることができると考えた。以下は、その事例研究である。

大形は大阪府立大学でおもに中国思想関連の授業を担当しているが、初級中国語（中国語会話）を週に一齣担当している。全くの偶然だが、昨年および今年の二年にわたり、一人ずつ中国人の学生（一年目は学生Z、二年目は学生Y）の授業を受けもつことになった。二人はともに留学生ではない。それぞれ事情は異なるものの両親の都合によって日本で教育を受け、センターテストをへて入学した学生である。学生Zは小学六年まで中国にいたため、ピンインと簡体字は問題がない。学生Yは日本で生まれたあと一度も中国に行ったことがなく、また家庭でもとくにピンインと簡体字を学習していないため、大陸の出版物を読む際、読めない漢字がある。これは後出の王の教えている児童と同様である。

現在、日本に在留する中国人の子弟は数多い。日本と中国の交流が進むにつれ、このような事例は今後、ますます増えていくことになると思われる。一般に、家庭で中国語を話している中国人学生に、初級の中国語を教えることは無意味のように考えられがちだが、日本で育った中国人児童や学生は、むしろ、ほとんどが簡体字が読めず、ピンインもわからないと考えた方がよい。そのような学生にとっては初級の中国語であっても学ぶ意味は存在する、というよりも、むしろ、積極的に学ばねばならないと思われる。

王は2003年度より、大阪府立大学の非常勤講師として、中国語の授業を受け持っている。工学部の一年生を担当している。一年目は二齣、二年目も二齣（うち一齣は再履修のクラ

ス)、三年目も二齣(二齣とも再履修のクラス)教えている。これまでのところ、大学での受講生に中国人学生はいない。

夫は中国人である。子どもは二人、ともに女の子である。いずれも、王の来日後に日本で生まれている。長女は高校二年生で、次女は中学一年生である*1。

2006年度4月から、富田林市在住の中国人の児童三名(A女6歳、小学一年、藤沢小学校・B男6歳、小学一年、小金台小学校・C男7歳、小学二年、藤沢小学校)に週一回、富田林、藤沢小学校と小金台小学校で教えている。この場合も先の学生Yの場合と状況はかわらない。

一、北京で小学六年生まで過ごした学生Zの事例

2005年は大阪府立大学が大阪女子大学などと統合し、新しい体制での授業が始まった年であった。大形は経済学部的一年生のクラスを担当した。クラスはコンピューターによる抽選で決められ、教員を選択することはできない。初級クラスの受講者(一年生)は、週に中国語基礎と中国語会話の2齣を受講する必要がある。大形は一齣しか、教えていないため、大形の受講生は、もうひとつ他の教員の授業を受けることになる。

大形徹の中国語会話クラスには学生Zが受講していた。学生Zは両親ともに中国人。中国北京の出身。1986年生まれ。小学校六年生まで北京におり、1998年から父親の仕事*2の関係で日本に暮らすようになる。来日後は小学六年生*3に編入。当初、日本語は全く理解

*1じつは王の長女・次女にも似たような問題が生じている。両親は家庭内で中国語で会話することも多いため、長女・次女ともに聴き取りは問題がない。長女は多少、中国語が話せるが、次女は中国に行っても全く中国語を話そうとしないという。思考する言語が日本語であり、また思春期でもあるため、一種、中国語に拒絶反応をおこしているのではないかと思われる。ピンイン・簡体字は、あまりおぼえていないようだ。王に限らず、自らの子どもに教えることは難しいようだ。後出の学生Zの妹もまた同様の問題をかかえているという。姉妹などの場合、下の子の方に、より多く問題が生じていることが多い。これは上の子には、それなりに気をつかうが、下の子には、そうではない、という理由によるのであろう。

*2会社員。上海との貿易に従事。在日10年で日本永住権をもっている。

*3本人によれば、中国での成績はクラスで真ん中より少し下ぐらいだったという。ただし、たとえば算数は中国の小学生は日本の中学生レベルのものを習っていたため、来日時には

できず、小学校の担任の先生の補習などをうけて学習した。妹は6歳違いである。来日した時に小学校に行っておらず、ピンイン・簡体字が読めないという。いま高校一年である。

学生Zは、その後、公立中学*4をへて公立高校*5に進学し、センター入試*6を受けて大阪府立大学経済学部に入學した。日本人と同様の試験であり、留学生特別枠で入學したわけではない。なお日本語の会話能力は、私の聞く限りでは日本人学生と何らかわらず、日本語で話をしていて、中国人だということは全くわからない。

2005年に大阪府立大学は府立大阪女子大学と統合し、新しい体制となった。中国語教育に関しては、当初、中国人の学生の受講を制限する特段の規定は設けられていなかった*7。学生Zは受講申請の際、その場にいた教員に自分が中国人である旨を伝え、受講の可否を尋ねたところ、受講してもよいとのことであったため、抽選の結果、大形の会話の授業ともうひとりの日本人教員が担当する中国語基礎の授業を受講することになった。

家庭では、ふつうに中国語を話していた学生Zにとっては、b p m fからはじまる初級クラスの授業はあまりに簡単すぎるため、学生Zが受講する、もうひとりの日本人教員と相談の上、それぞれ別個に学生Zに特別の課題を課すことにした。

大形のクラスでは学生Zに対して、NHK WORLD DAILY NEWSの中国語ニュースである華語新聞 (<http://www.nhk.or.jp/daily/chinese/>) の文章から、宿題を課することとした。NHKの中国語ニュースは、ラジオでも放送されているが、インターネットでも常時、聴くことができ、中国語の文章もネット上で見ることができる。当初、この宿題は学生Zのみに課すつもりであったが、学生はすべて経済学部の一年生であるため、おもに経済関係の中国にかかわるニュースをとりあげ、全員の宿題とした。

一週間に一つずつ中国の経済にかかわるものを選んで読み切りの教材とした。ニュースの文章を印刷し、あわせて、ニュースを理解するために必要と思われる資料を主にネット上から集めて配付した。これは中国語の場合もあれば、日本語の場合もある。偏向してい

日本の授業はとても簡単であり、学習に困難をおぼえることはなかったという。

*4加古川市立加古川中学校

*5兵庫加古川西高校は平成17年度は国立大学 70名 公立大学 63名の合格者を出している。大阪府立大学には5名合格している。学生Zは学年で10番ぐらいたったという。

*6 センター入試では英語で受験し、中国語では受験はしていない。中国語で受験できる制度があること自体、学生Zおよび担任の教員も知らなかったという。加古川西校では外国人の生徒は初めてだったらしい。

*7現在は中国語を母語とする学生は受講できないという内規がある。

る記述のものは避け、必ずアドレスを明記した。

授業では、まず、とりあげたニュースに関して簡単に解説をくわえた。その後、学生Zに読んでもらい、そのあと段落ごとに訳してもらった。華語新聞の文章はやや硬い表現が多く、一文が長いものが多かった。文法的に複雑な場合は簡単に説明をくわえた。その場合、文章の大まかな構造を示し、その骨組みに対して、どのように修飾語が付加されているかを説明することが多かった。時間の制約のため、説明はごく簡単なものにした。

以下、実際にとりあげたものの一例をあげる。

福原愛世乒赛前拜访中国驻日大使王毅 (2005年4月25日)

日本乒坛小将福原爱从本月30号起将参加在中国上海举行的世界乒乓球锦标赛。昨天，福原爱前往中国驻日本大使馆，为中国驻日大使王毅带去了日中友好的问候，希望通过乒乓球赛促进日中两国的友好关系。

福原爱用中文问候王毅大使说，“能见到您，我感到非常荣幸”。她还将签名写有“中日友好”的球拍和印有日中两国国旗的运动衣作为礼物送给王毅大使。

对此，王毅用日文说，“福原运动员在中国也很有名，是日本和中国友好的象征。请你作为民间大使，做出比我还多的贡献。”王毅还说，“希望日中两国人民通过乒乓球结下友谊”。

由于世界乒乓球锦标赛的举办地上海上星期爆发了大规模反日示威游行，有人担心比赛会受到影响。王毅对福原爱说，“中国人民一定会在上海对你表示热烈欢迎”。

上記は2005年4月25日のニュースである。中国語の授業がはじまってまもなくの四月の授業でとりあげたものである。とくにニュースとなるほどの内容でもないが、日本と中国で人気の高い福原愛についてのものであったため、学生の興味を引いたようである。中国での福原愛が新聞でゴシップ記事がでるほど人気が高いことなどもあわせて紹介した。当時、「反日示威游行」（反日デモ）が問題となっており、そのことがニュースの中にも反映されている。

学生Zは日本語訳は、ほぼ無難にこなせていたように思われるが、時々、構文が複雑すぎて、文意のとれないことがあった*8。北京出身のため、発音は非常に美しい。そのため、

*8学生Zは中国では小学校までしか行っていない。そのため、かたい表現の多いニュースのような文章には慣れていない。また中国語ニュースの文章は、本来、日本語で書かれたものを中国語に訳しているのではないかと思われる。そのため、言い回しが日本的な表現となっていることがあり、王をはじめ、多くの中国人からみて、やや違和感のある表現と

他の日本人の学生にとっては毎回、生の中国語を聴く機会に恵まれ、大変、有意義であったと思われる。大形は北京に留学経験があり、そこで中国人教師に発音の初歩から指導してもらってはいるが、やはり、日本人学生にとっては中国人の話す中国語を聴く方がよいことはいうまでもない。

当初、驚いたことがある。学生Zは国家主席の「胡锦涛（胡錦濤）」の発音を、hújǐntāo（フーチンタオ）ではなく、hújǐnshòu（フーチンショウ）としたことである。「濤（濤）tāo」が読めないため、「寿（壽）shòu」で代用して発音したということである。中国人であっても、すべての漢字が正確に読めるわけではない。中国の古典の授業で、大学院の留学生が、しばしば漢字の中国語の読みに詰まることは、よくあることである。

しかし、中国人でありながら、国家主席の名前を正確に読めなかった、ということは非常に興味深いことである。これは家庭で中国語のニュースを聞いていない、家庭内でもそもそも、国家主席の名をいうような話題がでない事などに起因すると思われる。その後の授業では、おそらく、同様の理由で、「連戦」（人名）が理解できなかった。これは台湾の国民党の「連戦」が中国を訪問した記事を読んだときである。

固有名詞以外に、文語的な言い回しに、とまどう場合があった。たとえば、「就」は「～について」と訳すべき場合が多くあらわれるが、口語では、ほとんどが「就是」として、あらわれるため、その感覚で訳そうとして意味がとれないことがあった。

2005年の前期は、上記のような形で宿題としての文章を与えた。日本人の学生も含め、それを写し、すべての漢字にピンインを施し、日本語に翻訳する、また簡体字と繁体字が異なる場合は、その区別をするという作業を課した。それ以外に教科書をすべて写すという宿題も課した。ピンインを辞書で調べることは大変な作業であり、日本人の学生から、すべての授業の中で、この授業の宿題がもっともきついと言われたこともある。その結果、「他の中国語の授業にでてくる単語のピンインが自動的にすらすらとでてくるようになった（2006年度の日本人学生）」という効果はあったようだ。

学生Zは、しばしばピンインおよび四声をつけまちがった。いちいち辞書を引く必要がないから、そうなるのだが、これは学生Zに限らず、中国の留学生全般にいえる傾向である。もちろん発音ができないわけではない。口では正しく発音できているにもかかわらず、ピンインを書き間違える場合がある。必ずしも口と手が一致していないのである。そもそも、中国人にとっては、最初から発音できるわけだから、わざわざピンインを書く必要はないともいえる。

なっていることが多いという。

ピンインは小学校の低学年までしか習わない。そのため、学生Zも小学生の高学年の時、「(漢字を書かずに)ピンインを書くと先生に、めっちゃ怒られた」という。別の中国人学生⁹も「ピンインを書くと(漢字が書けないとみなされて)アホやと思われる」という意見を述べている。要するに漢字が書けないから平仮名で書くということと大差はない。このことはピンインを教える際、十分、頭にいられておく必要があるだろう。ピンインは重要だが、あくまでも補助手段であって、ピンインそのものが目的となつてはいけないということである。すべてピンインだけで書かれた文章はじつに読みにくい。これは日本人の私だけでなく中国人も同様である。試しにすべてピンインだけで書かれた文章を中国人に読んでもらおうと、漢字だけの場合と比べて速度が半減し、なおかつ、詰まることが多い。これは日本語の文章を漢字で書かずに、すべて、平仮名、あるいはローマ字で書いたものを朗読することを想起すれば容易に理解できるだろう。そもそも、すべてローマ字で書いた日本語の文章が、ほとんど存在しないのと同様に、ピンインだけで書かれた中国語の文章も非現実的なものである。ただし、最近、パソコンなどの中国語の入力方法としてのピンインは重要なものとなっている。

2005年度後期から PinConv+¹⁰ (ピンコンブ) というフリーソフトを用いて、中国語ニュースもあらかじめピンインをつけたものを配付するようにした。このソフトは簡体字の文章を自動的にピンインに変換してくれるもので便利である。他に「簡体字中国語」→「日

*9瀋陽出身。彼女も小学生六年生まで中国にいた。

*10 <http://search.yahoo.co.jp/bin/query?p=pinconv&fr=top> (2006.12.30) 竹内信介氏開発のフリーソフト。Pinyin converter ピンイン コンバーターの意味であろう。「PinConv で出来ること 凸「簡体字中国語」から「ピンイン(発音記号)」への変換

凸「簡体字中国語」→「日本語漢字」への変換

凸「日本語漢字」→「簡体字中国語」への変換

漢字の発音を知りたいけど、辞書を引くのが面倒な時、辞書を引きたいけど、発音が分からなくて引きたくても引けない時などに、このソフトに貼り付けて変換すれば問題解決です。」という説明がつけられている。これに「PinConv をダウンロードし、<http://www.nhk.or.jp/daily/chinese/>をはりつけると、自動的にピンインに変換してくれる。それをコピーして、ワードのリッチファイルテキストに貼り付け、簡体字の字体を Min Liu に替えると上記のようになります。」という説明をくわえて配付した。Min Liu ではなく、Sim Sun でもかまわない。このソフトの存在は大阪工業大学の村上幸造氏にご教示いただいた。

本語漢字」への変換、「日本語漢字」→「簡体字中国語」への変換も可能で、なおかつ簡単な辞書機能が付いている。当初は、このソフトの存在を知らなかったため、学生それぞれに辞書をひかせ、ピンインを調べさせていた。その作業が大幅に軽減され、時間の短縮にはなったが、その分、辞書を引く回数が減り、学習効果としてはむしろマイナスかもしれない。

毎回の宿題は、先にも述べたように、とりあげた中国語ニュースの本文を写し、簡体字と日本の漢字が異なる場合には、それがわかるようにし、全文にピンインを付して訳するというものであった。授業の間に一応の訳は聞いており、また通常のニュースでも話題になっているものもあったため、それほど外れた訳を書くものはいなかった。模範解答として、学生Zに訳したものを提出してもらい、細かな間違いがあれば訂正し、それをクラスの人數分、印刷して次の時間に配付した。つぎの授業ではまず最初に前回の宿題を私が読み、それに対訳をつける形で学生Zが訳するという形で宿題の答え合わせをおこなった。日本人の学生は、それを参考にして、自分の訳を訂正して、授業の最後に提出するようにさせた。提出された宿題は5点満点で採点した。たとえば訳の全くないものは3点としたが、次回、訳を付して再提出すれば5点にした。細かい間違いは赤鉛筆で訂正した。

以下、後期の授業の内容の一部を紹介すると、

- 自民党議員提議在东海资源问题上采取对抗措施(2005年10月4日)
- 中国“神舟六号”载人 宇宙飞船发射成功(2005年10月13日)
- 警察逮捕一利用电脑病毒窃取网路银行存款嫌犯(2005年11月11日)
- APEC 东道国韩国农民示威抗议农产品自由化(2005年11月19日)
- 互联网股票交易帐户大幅增加(2005年11月24日)
- 中国取消香港公司抢注的“无印良品”商标(2005年12月13日)
- 中国修改后的去年GDP 总额排名世界第六(2005年12月20日)
- 湖南省湘江被含镉工业废水污染(2006年1月8日)
- 中朝两国首脑会谈似乎在北京举行(2006年1月18日)

などがある。

前期の終わりぐらいから、日本人の学生の理解度もあがってきたため、学生Zではなく、日本人の学生に模範解答用の文章を提出してもらった。学生Zが、「(日本人学生たちは)みんな、何でわかんんの」というほど、日本人の学生の理解力はよく、宿題の答え合わせも学生Z以外の日本人学生に順番にあてることも多くなった。文章の構造が英文に似ており、漢字の意味は、おおむね把握できるため、英文解釈と同じ感覚で理解できるのだろう。

以上で、授業の時間の約半分が経過するが、残りの時間は教科書を学んだ。たまたま、

学生Zが北京出身であったため、いろいろな言い回しについて、教科書の表現以外にどのような言い方があるかを提示してもらうことが多かった。NHKの中国語講座ではネイティブが読み方を担当する。学生Zにも発音の微妙なニュアンスについては実際に発音してもらって確かめることも多かった。日本人の受講生にとっては、毎回、必ず中国それも北京の人の発音を聞くことができるので恵まれていたといえる。

テストは百文字（自分の好きな中国語にピンインを付したもの）の暗記と、教科書と中国語ニュースから選んだ問題（教科書の聴き取りも含む）を出した。そのうち一問は授業でとりあげていない中国語ニュースからの出題である。学生Zに対しては、復文（本人が訳した中国語ニュースの文章を中国語ニュース風の日本語になおす）の問題をだした。これは文語風のややかたい表現に慣れるための練習である。

以下、前期の試験問題の一部を掲げる。

問題二 宿題（華語新聞）でとりあげた次の文章を訳しなさい。

1 在英国伦敦举行的8国集团财长会议于11号闭幕。当天的财长会议首先举行了中国和印度等国财长也参加的特别会议。与会各国财长纷纷要求中国改革汇率制度，取消人民币与美元的固定汇率制，提高目前被设定在较低水准的人民币汇率。

2 日本汽车厂商本田汽车公司开始正式向外出口在中国生产的小轿车，成为首家在中国开展整车批量出口业务的外国企业。

問題三 宿題でとりあげていない華語新聞の次の文章を訳しなさい。（日本人学生用）

中国人民银行于北京时间21号晚间宣布，将迄今为止同美元挂钩的人民币汇率变动幅度放宽，从1美元对8.2765人民币改为1美元对8.11人民币。这样，人民币实际上升值了2.05%。

問題四 以下の日本語を中国語ニュース調の中国語に訳しなさい。（学生Z用）（内容は省略）

前期のテスト後に、日本人の学生に「テストは難しかった?」と、たずねたところ、意外にも「簡単だった」という返答が多かった。点数もかなりよかった。学生Zは、問題四に関しては「山が外れて、出来が悪かった」といっていた。自分の書いた日本語訳をもとに中国語に訳しなおすというものだが、この部分、予想が外れたため、暗記していない箇所が出たことになる。結局、本人の実力で中国語訳をしたことになる。中国語訳としては間違いではないが、中国語ニュース調の堅い中国語には、ほど遠かった。中国語の作文の指

導は小学校以来、受けていないはずなので、それは仕方のないことだが、中国人であっても、というか中国人であるからこそ、まだまだ、学ぶ必要があるということだろう。学生 Z には将来、中国の大学あるいは大学院に進学したいという希望もあるようだ。これは本人にとって有意義なことだと思われる。

以下は学生 Z 本人の一年間、授業を受けての感想。

「役にたったこと。発音の練習。中国語を話す機会がないため、そのぶん発音の練習ができた。きっちりとした文章の書き方や読み方を学ぶことができた。中国に関する情報を知ることができた。2006.11.8」。

なお学生 Z は翌年の 2006 年度前期の中国語の授業に飛び入りで何度か参加してくれた。その際、友人の別の中国人男子学生も一緒であった。学生 Z だけでなく、彼にも文章を読んだり、日本人学生の名前を読み上げてもらったりした。彼は南方の出身なので本来、巻舌音がない。それを意識するあまり、巻舌音で発音する必要のない言葉まで無理に巻舌音で発音して学生 Z に笑われたりしていた。これも日本人学生にとっては、とても大切な経験になったと思う。標準的な中国語で話をできる中国人はじつは限られていて、そうでない場合の方が多いいことを実際に体感できたと思われる。また彼に学生 Z と一緒に中国語ニュースを訳してもらったのだが、学生 Z はさすがに一年間、学習しただけあって、その訳には一日の長を感じさせた。授業後、二人は日本人学生たちに拍手で送られたが、ネイティブでない私の授業にはゲストとして中国人が時々、参加してくれるとありがたい。

二、学生 Y の事例^{*11}

二年目の 2006 年度も 2005 年度とほぼ同様の方法で授業を行っている。2006 年度に関しては、前期の途中より中国語ニュースを日本人学生に訳してもらっている。2006 年度は最初から PinConv+ を使用している。そのため、ピンインを調べる手間は大幅に軽減されている。ただし、PinConv+ は熟語の切り方に不備がある事があり、また、wéi/wèi、hái/huán などの区別は自分で選ばねばならない。これは、そのままプリントして学生に渡して選択させるようにしており、こちらで手を加えることはしていない。中国語ニュースの翻訳の

*11 学生 Y については当初、本人の了解を得ていたが、その後、了解を得られなくなったため、詳しいデータをここであげることはできなくなった。授業のやり方は前年度のものを踏襲し、ピンインと簡体字を手で覚える、ということ意識した授業をした。以下、実際に授業をしたうえで感じた事を記す。

際も最近では日本人の学生に初見で訳させているが、かなりの程度、理解していることが多い。構文などで躓いている時は、文章の骨組みだけを示してヒントを与えるようにしている。最後に私がきちんと訳し、学生がそれを写すようなやり方は、あえてとっていない。そのため、日本人の学生は宿題として中国語ニュースを訳す際に、自分なりの日本語で訳すことを余儀なくされている。宿題として提出したものに訳の誤りがあれば赤ペンで修正するようにしている^{*12}。最近では、赤ペンの修正も少なくなり、そのことが、学生にとって励みになっているようである。

次の週の最初に、宿題の答え合わせをかねて、日本人の学生に順番に一節ずつ、朗読したうえで訳してもらっている。朗読は個人差がある。非常によくできるものもいるが、四声が定まらないものも多く、概して一本調子になりがちである。この時に一人一人の発音を直すようにしている。日本人学生は、ほぼ全員が漢字ではなく、ピンインの方を見て発音している。発音の基礎は年度初めに、しつこいほど練習しているが、それにもかかわらず、有 yǒu をユウ、从（從） cóng をコン、と読んでしまう学生がいる。要するに英語読みをしてしまっているのである。

そういったことを考えると、漢字を見て正しくピンインが書けているにもかかわらず、じつは正しく発音できていない場合が少なからず存在する可能性があるということになる。筆記テストだけでは正しく実力がはかれないということである。中国人でも標準的な発音ができないものが多々いるが、それとは次元の異なる問題である。ピンインはアルファベットを使っているが、英語ではなく、ローマ字でもない、ということ、を、繰り返し説明し、正しい発音を聴きながら、ピンインを読むという練習を繰り返して行い、誤った発音をしている場合は、その場で、できるまで繰り返させて直す。それより他に方法はないのかもしれない。

後期の二ニュースの中では、以下のものが目を引いた。

- 日本福島県在上海开设商店推销福岛特产（2006年10月31日）
- 中国广东农民抗议政府征收土地与警方发生冲突（2006年11月11日）
- 大连市在东京举行招聘说明会吸引日本退休人员（2006年11月22日）
- 在日外国研修生失踪者5年来超过一万人（2006年11月27日）
- 中国今天约有21万人参加日语能力测试（2006年12月6日）

*12 2006年度は、ティーチングアシスタントの重信あゆみさんに手伝っていただいている。

○日本麒麟啤酒将与中国公司合作巩固事业基础 (2006年12月16日)

No. _____

姓名 _____ 经济 _____ 日期 _____

riben qilin pijiu jiang yu zhongguo gongsi hezuo gonggu shiye jichu
日本麒麟啤酒将与中国公司合作巩固事业基础

riben zhuming pijiu zhizaochang "qilin pijiu" jueding weimei gongsi gaoi gongsi zai zhongguo
日本著名啤酒制造商“麒麟啤酒”决定，为巩固该公司在中国

shanghai ji zhoubian diqu de shiye, jiang yu zhongguo pijiu zhizaochang jinxing ziben lianhe
上海及周边地区的事业，将与中国啤酒制造商进行资本联合，

tuijin chānpin de shengchan yu fānmài
推进产品的生产与贩卖。

qilin pijiu gongsi xuanbu gāi gongsi yǐ qǔde zǒngbù wèiyú zhōngguó zhèjiāngshěng hāngzhōushì de
麒麟啤酒公司宣布，该公司已取得总部位于中国浙江省杭州市的

qiāndāohú, pijiu yǒuxiàngōngsī 25% de gǔfēn qí zǒngé xiāngdāngyú 45 yì duō rìyuán jīnhòu
“千岛湖”啤酒有限公司 25% 的股份，其总额相当于 45 亿多日元。今后

qilin chú duì qiāndāohú gōngsī tígòng shēngchǎn jìshù duì qí pǐnzhì guǎnlǐ yǐ jí chǎnpǐn
麒麟除对千岛湖公司提供生产技术，对其品质管理以及产品

kāifā jìnxíng zhīyuán wài hái jiāng lìyòng qiāndāohú gōngsī de shēngchǎn jùdiǎn yǐ jí xiāoshòu
开发进行支援外，还将利用千岛湖公司的生产据点以及销售

wǎngluò zài yǐ shànghǎi wéiwéi zhōngxīn de jīngjì chéngzhǎng xiǎnzhù de chángjiāng xiàyóu dìqū dàlì
网络，在以上海为中心的经济成长显著的长江下游地区，大力

tuijin qilin xīn chǎnpǐn de shēngchǎn yu fānmài gōngzuò
推进麒麟新产品的生产及贩卖工作。

日本のキリンビールが中国の会社と合併のし、かりた事業の基盤を始めようとしている。

日本の有名なビール製造会社の「キリンビール」が決定したことには、会社が中国での上海及び周辺地区の事業を強固にするため、中国のビール製造会社と資本の合同をため、製品の生産と販売を推進する というのだ。

キリンビールが述べるには、この会社は 本社は中国浙江省杭州市に位置する「千岛湖」ビール有限公司の 25% の株式を既に所有しており、その総額は 45 億円に相当する。今後、キリンビールは 千岛湖ビールに対して生産技術を提供し、品質管理および製品開発の進行を支援する以外に、更に 千岛湖ビールの生産拠点および販売ルートを利用しようとしており、上海を中心とする経済成長が顕著である 长江下流地区で、強かに キリンの新製品の生産 および販売事業を進行していくことになる。

(※上記は2006年度経済学部学生(男)の提出した宿題。現時点で最新のもの。内容によって、これを選んだわけではない。表題の部分の訳はおかしく、あとの部分の

訳も微妙にずれているところがあるが、全体として、それほどずれてはいない。初級中国語のレベルで、自力で訳して、この程度ならば、ますますとみてよいだろう)

日本の福島県が中国で特産品を売ろうとしているというマイナーなニュースだが、日本人の中国に対する意識が確実に変化しはじめていることを伝えている。大連市が日本人の退職技術者を招聘するための就職説明会を東京で開いたという話も興味深い。ただし、実際に求人状況をしらべてみると、若者を募集しているところの方が多く、給料も結構、高いところがあった。

中国はこれまで、中国是世界上最大的发展中国家^{*13}といていたが、玖龍紙業の女性社長、張茵(Zhang Yin)の推定資産は34億ドル(約4070億円)とされ、国美集団の黄光裕(Huang Guangyu)社長の推定資産は25億ドル(約3000億円)とされている^{*14}。

経済においては、日本とアメリカの関係以上に日本と中国の関係が密接になっていくことは目に見えている。すでに主な輸入元はアメリカが輸入額全体の12.4%であるのに対して中国が21.0%になっている^{*15}。経済学部の学生は中国語を必修として学ぶ事になっているが、将来は英語以上に必要とされる日が来るであろう。

私が教えているクラスでも中国語検定を受けたいという学生が、いまのところ2人いる。将来は英語の検定試験とともに中国語の資格も必要となってくるかもしれない。

三、ピンイン・簡体字の読めない在日中国人小学生に教える事例

王秉玉は2003年度より、大阪府立大学の非常勤講師として中国語の授業を受け持っている。王のクラスでは、これまで中国人が受講した例はない。夫は中国人で二人の女の子がいる。二人はともに王の来日後に生まれている。長女は高校二年生で、次女は中学一年生である。

2006年度4月から、日本在住の中国人の小学生三名に中国語を教えている。いずれもピンイン・簡体字が書けず、また読めない。これは2006年度に大形の授業を受けていた学生Yの事例と全く同様であり、そのような状況が必ずしも特殊なものではなく、今後、ますます増加するであろうことを示唆している。

* 13 胡锦涛在伦敦金融城就中国发展方向等作重要演讲 2005-11-10
(<http://sapporo.china-consulate.org/chn/ztxw/t220740.htm>)

*14 <http://blog.livedoor.jp/emasutani/> (2006年10月11日検索) を参照。

*15 <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B2%BF%E6%98%93> (2007年1月2日検索) を参照。

以下、王の事例でとり上げるように小学校低学年あたりに、ある程度、対策を講じることができれば、その後、ずいぶんと楽になるであろうことは容易に想像できる。

王はA女、B男、C男の三名に教えている。

A女 6歳（富田林市立藤沢小学校一年）

B男 6歳（富田林市立小金台小学校一年）

C男 7歳（富田林市立藤沢小学校二年）

三人あわせて、週一回、富田林市立藤沢台小学校と小金台小学校とで、場所をかえて教えている。

A女（6歳小学一年）とC男（7歳小学二年）は兄妹であり、藤沢台小学校に通っている。Cは、父母は中国人、商売で日本にきている。両親ともに、もと留学生、経済学を学んでいたという。二十年前に来日し、父は四十一歳、母は四十五歳ぐらい。子どもは、日本語については全く問題がない。ピンインについては全く知らない。そのため、ピンインは書けないし、読めない。簡体字も知らない。中国語は少し話せるが、百分率でしめせば20パーセントぐらいという。

B男（6歳小学一年）は、母は残留婦人の子（B男の祖母は日本人で残留婦人、祖父は中国人）、父はその配偶者。両親は来日、十年前後。母は中国の長春の郊外出身、大専（短期大学）を卒業している。来日時は日本語は全くできなかった。そのことで苦労したため、子どもには二カ国語を学ばせたいと考えている。父は工場の労働者で、現在のレベル以上に日本語が上手になることはあまり期待できないという。

A女・B男・C男ともに簡単な中国語会話はできる。たとえば「ウオ チュイ パンチュウ ママ マイ トンシ(我去帮助妈妈买东西)」ぐらいは話せる。ただし、「かわいいのワンチュイ(玩具)」、「ヨウイースータ(有意思的)ポケモン(B男)」、「ウオメン チュエンジア イーチー チュイ ヨウユエンティ(我們全家一起去遊园地)（「遊园地」は「○○公園」というべきところ）」といった、中国語の単語と日本語の単語の混用がある。おそらく家庭内でもそのような状況であろう。そのこと自体は、とくに問題視するほどのこともないだろう。

ほかに「レンミエラ(人滅了)(C男)(これは誤用、正しくは「(レンメイラ)人没了」というべきところ）」といった誤用がみえる。

A女・C男は、教育水準の高い父母が、富田林市教育委員会に要望して特別の授業を受

けさせてもらえるようにしたようだ。王は人材バンク*16に登録しており、教育委員会から依頼されたという*17。

なお、狭山市でも同様の状況(中国人の子弟で簡体字、ピンインが書けない、読めない)が存在するが、狭山市のある小学校の校長に相談したところ、「そのようなことは理解できない」といわれ、相手にしてもらえなかったという。同じ大阪府内であっても市によって取り組み方が異なっている。

教材

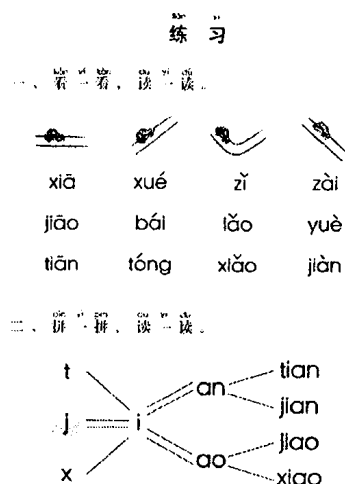
以下、王が実際に使っている教科書*18を具体的にとりあげて説明したい。

①崔巒『标准中文』(第一級第一冊、課程教材研究所、編著、人民教育出版社、2006年)(図版参照)。これは「学齡前教育」といわれ、中国では小学校入学以前につかうものである。



写字笔顺规则表

规则	例字	笔顺
先横后竖	十	一 十
	下	一 丅 下
先竖后横	人	ノ 人
	天	一 二 天
先上后下	三	一 二 三
	足	口 丿 足
先左后右	红	夕 红
	你	亻 你
先外后内	月	冂 月
	肉	冂 肉
先内后外	山	丨 山
	这	辶 这
先中间后两边	小	丨 小
	水	丨 水
先里头后封口	日	日 日
	四	口 四



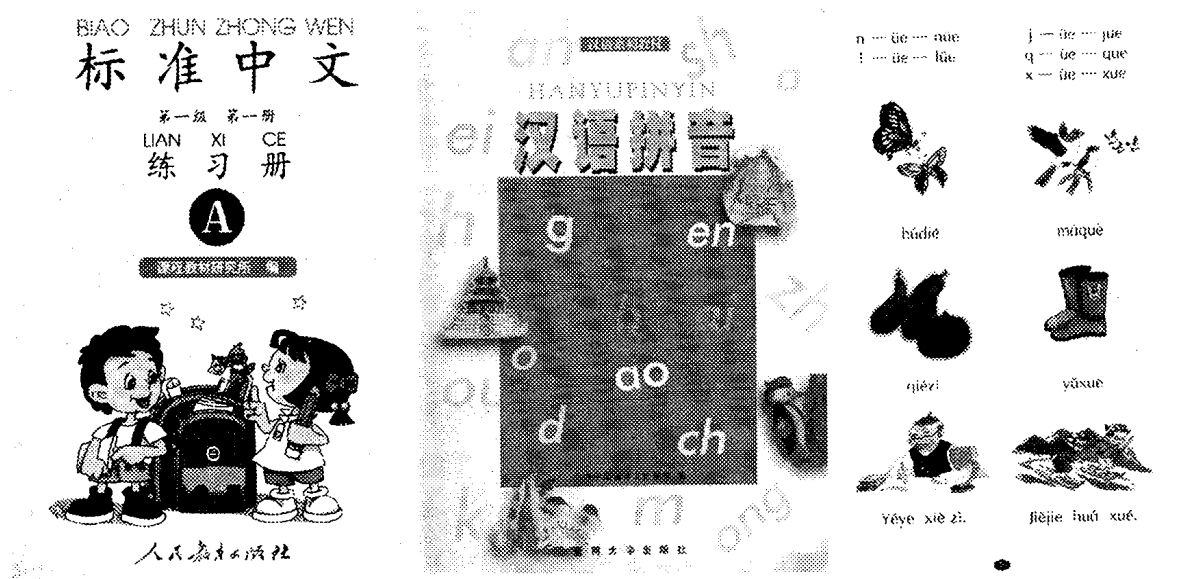
①には練習用ノートがついており、崔巒『标准中文』第一級第一冊、練習冊A、練習冊B

*16富田林教育委員会は、そのような児童が成長後、中国人両親とのコミュニケーションをはかるために特別授業が必要であると判断している。小金台小学校には、『こがねっと』学校支援人材バンク <http://www.city.tondabayashi.osaka.jp/kogane/>があり、国際交流(外国語会話、外国の文化や生活の紹介)などがその項目としてあげられている。

*17大阪府教育委員会の非常勤の教員に準じている。時間給で一時間 3000 円。毎週一回、木曜日、三時半から五時まで一時間半教えている。

*18 教科書はすべて大阪日本橋にある「上海新天地」七階にある中国書店で購入している。ここには「漢語教材」が多くならべられており、王の必要とする学齡前教育の書籍などがそろっている。

がついている(図版参照)。それ以外にピンインの補助として、



②『漢語拼音』(監制、中国海外交流協会、暨南大学出版社、2003年)(図版参照)。③肖楠・王媛媛『兒歌三百首』(中国戲劇出版社、2006)。



④佟子華『幼兒拼音』(北京洪恩教育科技有限公司、吉林文史出版社、2006年)。⑤『中文練習冊(B)・第一冊』(監制、中華人民共和國國務院僑務辦公室、暨南大学出版社、1998年)を使用している。

他に外国にいる華僑の子女のための中国語教材や練習問題集を使っている。また、ピンイン掛図(圖)を貼ったり、カードを使用し、ゲーム感覚で遊びながら勉強させている。むりやり、覚えさせるといやがって、かえって効果があがらない。



中国の子どもは、就学以前、三ヶ月で全部おぼえられる。つまり、書く・読む・認識の3つができるということである。日本であれば、状況はことなるため、一年でそれができれば良いとおもわなければならない。ピンインができるようになれば、あとはある程度、自分で調べて、本が読めるようになる。

日本在住の中国人がピンインを学ぶ際に問題となるのは、どうしてもローマ字読みをしてしまうということである。これは日本人大学生の場合とかわらない。それにピンインが中国語とは認識できないことである。ピンインを学ぶことだけからいえば、ローマ字を学より前におぼえさせる方がよい。ただし、ふだんから中国語を耳にし、話す環境にあるため、中国語の発音自体はとてもよいという。つまり、ピンインと発音がなかなか結びつかないという状況にあるという。

あと同じ漢字に二つの発音（日本語・中国語）があることが、混乱をきたしている。日本語の感じの音読みは、本来、中国音ではあるのだが、現在は相当、異なったものになってしまっている。それを子どもに教えることは、なかなか難しく、しばしば、混乱する。

A女・B男・C男ともに、家では、ほぼ日本語が使われている。これは王の家庭も同様であり、日本在住の多くの中国人の家庭でも同様であろう。子どもが日本語がもっと得意であるという状況では、このようになるのが、一般的であると思われる。

おわりに

王が小学生に適用しているピンイン・簡体字の教え方は、中国の一般家庭で教えている

方法に近いであろう。王自身が子どもの時に母親にならったようなことも授業の形で反映されているように思われる。これはもっとも自然な教え方であって理想的な教え方であるかもしれない。ただ、現状ではすべての地域で、王のような授業が行われているとは言い難く、狭山市の例のように全く理解してもらえないことも多いだろう。また、この方法をそのまま大学生に用いることはできないことはいうまでもない。

大形は 2005 年・2006 年と、連続して中国籍の学生の参加する授業を担当することとなった。二人はともに留学生ではない。中国語のレベルには相違があるが、いずれも中国で育った中国人と比べると逡庭があることは否めないであろう。大阪府立大学では、本年より、中国語を母語とする学生は受講できないことになっている。中国からの留学生は初級中国語に関しては受ける必要がなく、受けても無意味である。彼らには中国文学や中国哲学といった古典の授業をすすめたい。しかし、日本在住の中国人については、そのレベルにもよるが、むしろ初級中国語を受講した方がよい場合もある。これは在日朝鮮人三世が日常レベルでは朝鮮語をほとんど話せなくなっており、大学で朝鮮語を学ぶことが多くなっていることと似ている。王の事例からもわかるように日本で育った中国人はピンイン・簡体字を理解できないことが多い。その場合、当然、どこかで学ぶ必要があり、それが大学の授業である場合も、あらわれてくると思われる。

別個に課題を課すことも当然、有効な手段であろう。そうではない場合は、大形の用いた方法もある程度、有効ではないかと思われる。日本人学生にとって、一般に初級の語学の場合は、積み上げ式の授業を行うことが当然で、最初から高度なものを読むことは無理である。この二年間、あえてその無理なことをさせてきた。その結果は、予想以上のものであった。中国語ニュースのような時事的なものであれば、最初から、ある程度、内容が把握できる。かつまた経済を専攻する者にとって関係のある内容のものを選べば、日本人学生にとっても興味をいだかせるものではないだろうか。最初からすべてわからなくともよい、最初は全くわけがわからなくても、一年というスパンを通しての授業が終了する頃には、かなりの程度で自力で文章を読み、理解することができるようになる、もし、目標をそのあたりにおくならば、それは十分に達成できるものであった。前期の終わりあたりには、すでに、かなりの程度で理解できるようになっていたのである。これは当初から、意図したことではなく、多分に偶然的な要因により、はじまったものではあるが、結果として日本人の学生の實力を向上させることにもなったと思われる。これは大きな副産物である。